

見えざる先行技術との攻防： 技術常識の脅威と 「強い明細書」の設計図

特許庁「審判実務者研究会報告書2025」から読み解く、
事後分析的攻撃を跳ね返す5つの実践的ドラフティング戦略

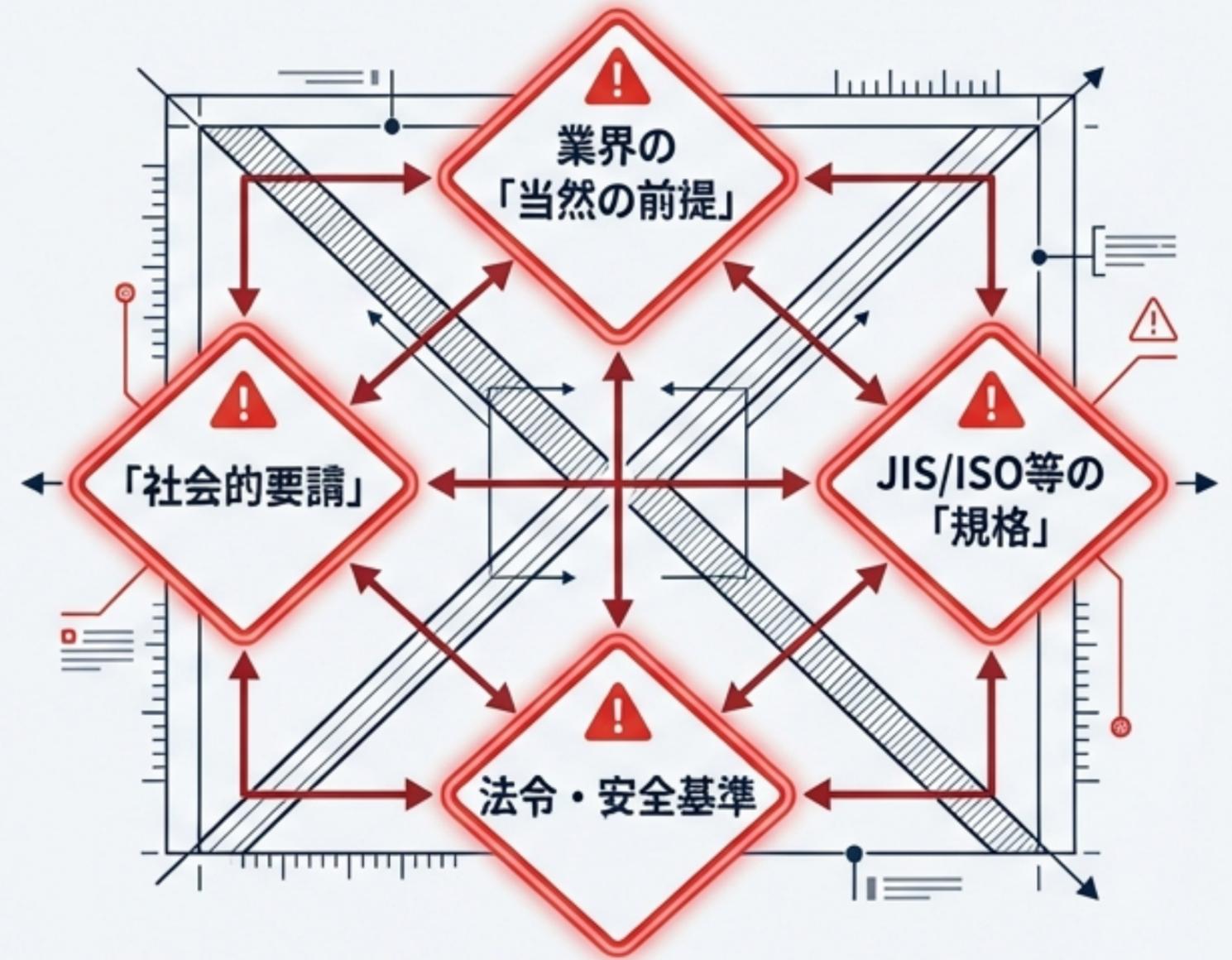
Target: 企業の知財担当者 / 弁理士 / 発明者

従来の認識



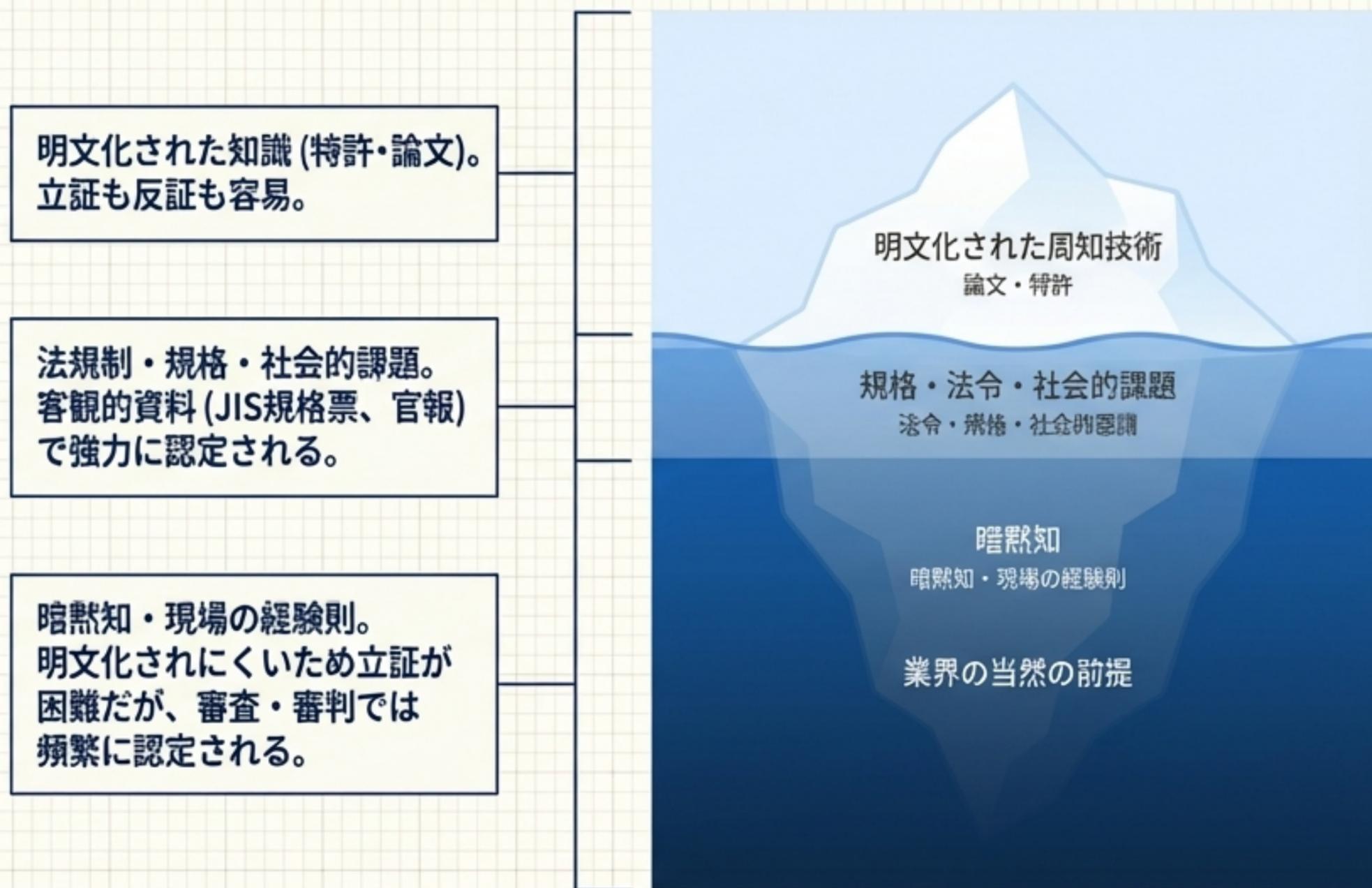
学术论文や教科書に明記された「自然法則」や「周知の製造方法」。客観的な証拠に基づく。

近年の実務における「技術常識等」の肥大化



警告：引用文献に明示的な記載がなくても、これらの「見えざる常識」が進歩性否定の強力な根拠（動機付け・設計事項）として認定されるケースが急増している。

進歩性判断における知識の階層と立証の難易度



特許出願において「当業者なら当然わかる」と記載を省略した暗黙知こそが、後日、最大の弱点となる。

進歩性判断フローにおける技術常識等の介入ポイント

1 本件発明の認定

類型1：クレーム解釈

事例⑤（分割線加工物＝バリと解釈）。抽象的な文言も技術常識のフィルターで物理的構造に限定される。

2 引用発明の認定

類型2：引用発明の補完

事例①（不織布のニードルパンチ跡）。文献に記載がなくても、常識から「当然備わる構成」として読み込まれる。

3 副引用例の適用による相違点判断

類型3：動機付け

事例②（CO2排出量低減）。「社会的要請」という強力な共通課題により、異なる技術分野の文献同士が結びつけられる。

4 副引用例なしの相違点判断

類型4：設計事項・阻害要因

事例⑥（JIS規格鋼材）。数値の好適化が単なる「設計事項」とされる一方、規格が「阻害要因」として働くこともある。

課題の抽象化（後知恵）の罠と司法のブレーキ

引用発明の本来の課題

「バッテリーの温度低下に伴う電力低下」



審決における事後
分析（後知恵）

「温度」という物理的条件
を恣意的に捨象（無視）。

抽象化・上位概念化された課題

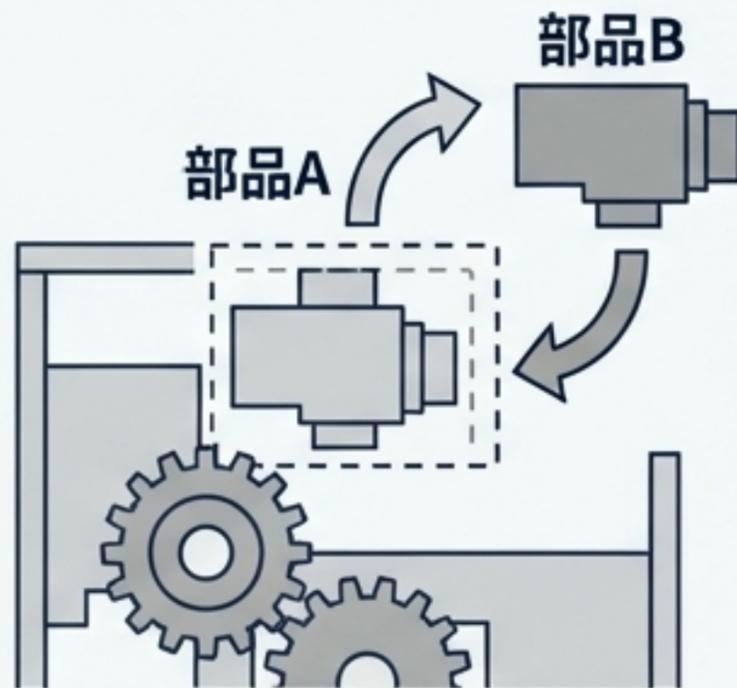
「バッテリーの供給可能電力が低いこと」

知財高裁の判断
(事例③：ビークル事件)

四輪車の温度課題を、ドローン等の「リーン旋回車両」の電力課題と安易に共通化することは違法。構造・移動形態の本質的差異を無視した「後知恵」を厳しく排斥。

相違点の構造分析：置換型 vs 付加型の脆弱性

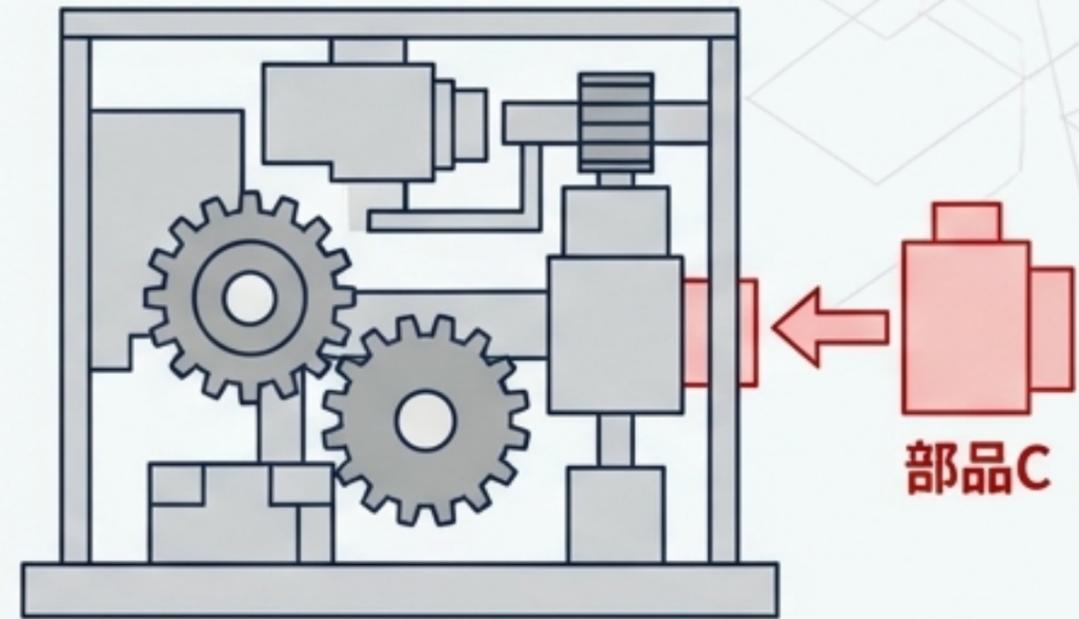
置換型 (Substitution Model)



メカニズム: 主引用発明に既に構成が存在するため、その「課題」や「作用効果」が明示されている。

リスク評価: 外部から技術常識を導入して新たに「内在課題」を認定する必要性が相対的に低い。

付加型 (Addition Model - 高リスク)



メカニズム: 追加する構成に対応する課題が、主引用発明に記載されていないことが多い。

リスク評価: 審査官が技術常識を用いて、主引用発明に「実は課題が内在していた」と事後的に認定し、構成を付加する動機付けを構築してくるリスクが高い。

【実践】技術常識の攻撃を跳ね返す特許明細書チェックリスト

評価軸 (Dimension)	× 弱い明細書の特徴 (Vulnerable Approach)	✓ 強い明細書の特徴 (Resilient Approach)
効果 (Effects)	<ul style="list-style-type: none"> 出願人の主観として、いかに独創的課題、解決や顕著な効果が記載されているのみ。 定定的な構成のみで出願した後にに数値限定ををクレームアップするなど、技術的意義が不明。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術荷講等と本発明に特有の事項とを確に区別する。 本発明の効果と技術常識に対応する効果との「質的は量的な差」を視明に配示すデータを記載する。
課題 (Problems)	<ul style="list-style-type: none"> 「二酸化炭素排出量低減」など、技術分野を超えて広く知覚される社会の要請や周知の単一の課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 引用発明が解決する課題と、本発明（例：小型のリーン流回両一般的に有する課題が共通しないこと（課題の非共通性）を主持できる構造とする。
パラメータ (Parameters)	<ul style="list-style-type: none"> 「所望の効果が発現できる量での添加」や「用途にはちぎに適した寸法の最適化」など、設計事みなれさきやすい単一の数量を規定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の数値範囲の意義をデータと共に明記する。 パラメータを選択できない、又は値を設計変更できないことともさす技術術素講（阻害）を明記する。
先行技術 (Prior Art)	<ul style="list-style-type: none"> 引用発明の具体的な構造や前提条件を考慮せず、周知技術的の単なる組み合わせで認定される余地を残す。 	<ul style="list-style-type: none"> 引用発明とは構造が本質的に異なること（例：陸上車両） 特定の構成（例）：従来前提とされた特定規の標材）を「阻害要因」の採用対し、認定事実実行う証明を提示する。

特許庁の審査・審判における事後分析的（後知恵的）な攻撃を無力化するための構造的診断マトリックス。

指針1：技術常識的「効果」と本願特有の「相乗効果」の峻別

要素A + 要素B = 効果X

(例：カーボンブラックによる遮光・耐候性向上)

事例①（土木工事用不織布）。明細書に記載された効果が「技術常識として当然に得られる一般的な効果」に留まる場合、単なる設計事項として処理される。

要素A + 要素B = 効果X
+ 予期せぬ相乗効果Y

構成要素の一般的な作用効果（常識）は隠さず前提として開示する。その上で、「特定の組み合わせ」によって初めて生じる、技術常識を凌駕する（質的・量的に異なる）効果に対比データと共に明記する。

指針2：「阻害要因」としての業界標準・規格の戦略的文書化



パラダイムシフト

業界に深く根付いた技術常識や標準仕様は、弱点ではなく、他技術の組み合わせを阻む強力な「阻害要因」になり得る。

(事例⑥：鋼管矢板、事例⑧：特定の溶解炉バーナー)

実践的アクション

- ヒアリング時：「なぜ他社はこれまでこの設計変更をしなかったのか？」「業界の常識と相反する部分はどこか？」を徹底的に掘り下げる。
- 明細書の記載例：「当該分野では〇〇規格に従うことが常識であり、当業者はあえて別構成を採用する動機を持たなかった」と一次資料を引きながら背景技術に明文化し、自らの手で「従来技術の常識という高い壁」を築く。

指針3：パラメータ発明における「臨界的意義」の強固な裏付け

脆弱性 (Vulnerable)



「用途に応じた寸法の好適化」は当業者の通常の創作能力（事例④：木質ボード）。公知データの分布域に容易に吸収される。

レジリエンス (Resilient)



上限と下限の両方において、効果が「非連続的（顕著）に変化する」ことを示す実験データを充実させる。

将来の補正の自由度を担保するため、広め・中間・狭めの段階的な数値範囲ごとに、効果の差異を定量的かつ客観的に詳述する。

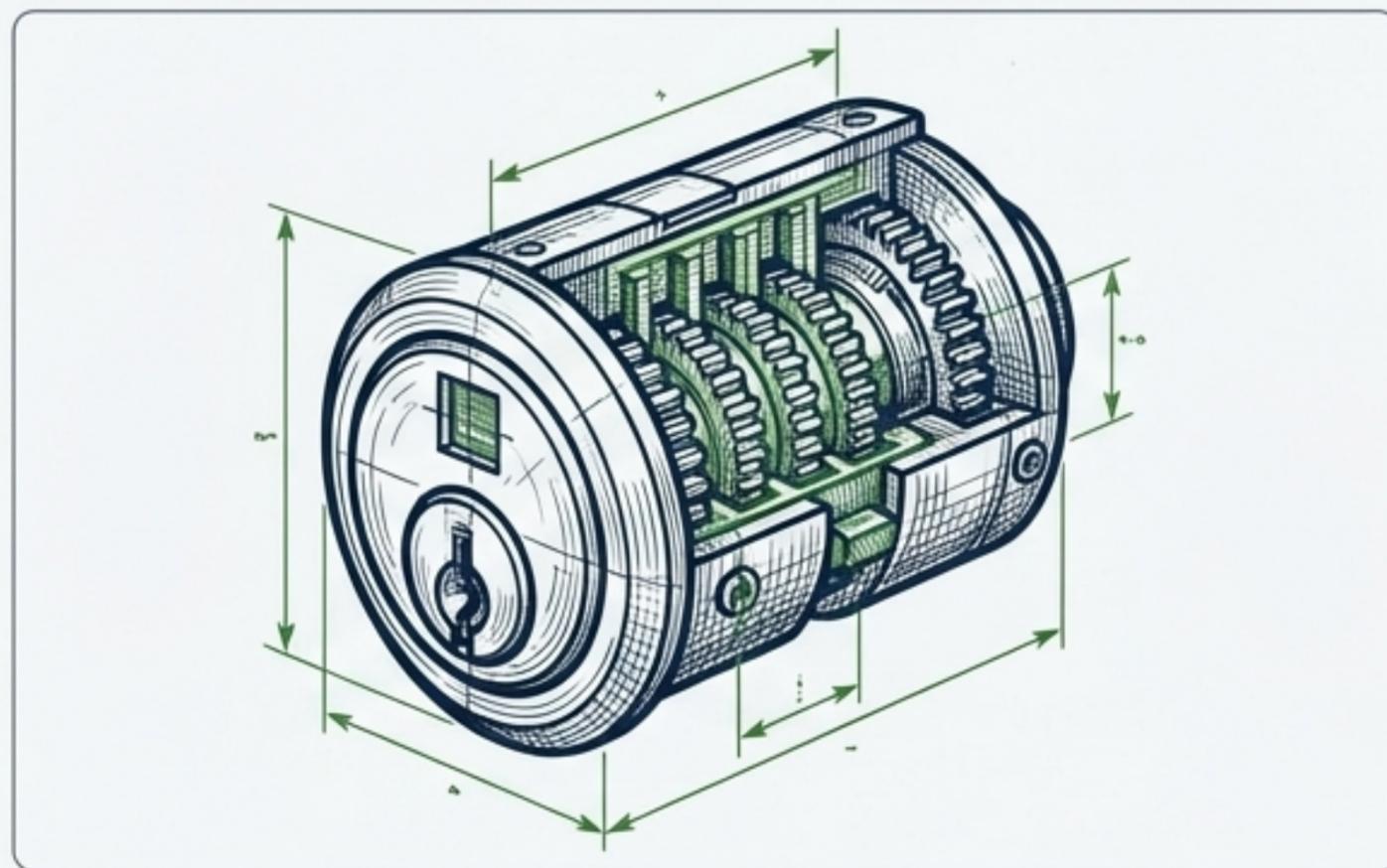
指針4：「解決すべき課題」の高解像度化（過度な上位概念化の防止）

Generic & Vulnerable



汎用的な課題は、あらゆる先行技術文献に「内在している」と認定されやすく、容易想到性のハードルを著しく下げる。

Specific & Resilient



固有の物理的構造や特定の運用環境に起因する、極めて個別具体的かつ特殊なメカニズムに基づく課題を記述する。

【具体例】「リーン姿勢で旋回する特殊車両においてのみ発生する、特有の重量制約下での熱動態ジレンマ」（事例③準拠）。課題の解像度を極限まで高め、汎用常識との結びつきを断つ。

指針5：新興技術（AI・IoT）における「出願時」の技術常識の記録



技術進展が速い分野特有の課題

数年後の審査・審判時に「出願当時の技術常識」を事後的に立証することは極めて困難。AIのブラックボックス的性質によりサポート要件違反に問われやすい。



「歴史的記録」としての明細書作成

- 背景技術の欄に、出願時点での「業界標準モデルアーキテクチャ」と「その限界・未解決問題」をスナップショットのように精緻に書き残す。
- 入出力データの設定がどのように発明の中核を成すのか、公知技術と本件特有のノウハウ（データ前処理等）を明確に峻別し、一切の推測を排して明示する。



結論：技術常識の脅威を制御する「戦略的設計者」へ

単なる「翻訳者」

発明者のアイデアをそのまま特許のフォーマットに変換するだけ。暗黙知を省略し、事後分析の餌食となる。

意識の
パラダイムシフト

「戦略的設計者」 (Strategic Architect)

- 将来の審査官や競争相手が提示する「技術常識」を事前にシミュレーションする。
- 強固な阻害要因の明示、課題の極限までの具体化、パラメータの臨界的意義の証明という「論理的な罠」を、出願時の明細書構造の中に緻密に埋め込む。

「見えざる先行技術」である技術常識は、出願人の特許権を脅かす**強大な脅威**にも、逆に**特許権を守る強固な盾**にもなり得る。**防波堤**は、出願の瞬間にしか築けない。